



音楽を通してさまざまなことを経験し幅広い視野を養ってほしい



小原先生は、金城学院グリークラブ(中学校・高等学校)の顧問として30年間活動され、コンクールにおいて数々の受賞歴をお持ちです。現在、バリトン歌手としてオペラの主演を演じるなど、数々の舞台に出演され幅広く活躍されています。先生にとって、音楽とはどのようなものなのでしょうか。

金城学院中学校
小原 恒久 教諭

- 1949年生まれ
- 愛知県立芸術大学卒業
- 公立中学校教諭を経て1976年から現職
金城学院高等学校、金城学院大学でも指導にあたる
- 名古屋オペラ協会会員として多数のオペラに出演

音楽の分野に進まれるまでの道のりを教えてください

私が初めて音楽と出会ったのは幼稚園の頃でした。バイオリンの先生が幼稚園に教えに来られて、友達がみんなの前でバイオリンを演奏したんです。友達のバイオリンを弾く姿を見て、カッコいいな、自分もやろうかなと思ったことが、初めての音楽との出会いです。その頃はまだ週に一度音楽教室の先生にバイオリンを習うくらいで、細く長くといった感じで続けていました。

中学3年生の時に、仙台から松山の学校に転校しました。松山の中学校はずいぶん田舎の学校だったのですが、2学期の始めに“浜辺の歌”という歌のテストがありました。私の歌声はとても大きかったようで、学校中に響き渡ったんです。あの声

は誰なんだろうと騒ぎになり、私はすっかり注目を浴びてしまいました。その頃もバイオリンは続けていたのですが、どちらかという、音楽よりも野球が好きでしたね。でも、そんな出来事もあったおかげで、私は歌う事の楽しさに気づき、高校では合唱部に入りました。

高校で、NHKのコンクールや合唱連盟のコンクールに出始めるようになりました。コンクールに出るにも、とてもそのレベルではなかったものですから、必死になって練習をしました。私の通っていた松山東高校は、夏目漱石も教鞭を取った歴史のある学校で、ちょうどその頃、新校舎が建設中のため音楽室がなく、敷地の中にあった旧藩学明教館を音楽室にして練習していました。50人くらいの部員が、とにかくわいわい楽しみながら練習をしました。そして、何

とかコンクールに出ることができ、見事に四国2位を受賞したのです。

この結果を残すことができた理由は、もちろん仲間とのチームワークがあったからだと思いますが、それ以上に、顧問の先生の指導力のおかげだと思います。その先生には、生徒を惹きつける力があり、オーラが出ていました。先生はコンクールの日に体調を崩されながらも、点滴を打って出てきてくれたことがありました。そんな先生の私たちへの熱心な姿を毎日見ていたものですから、私たちもやらなければという気持ちが自然に生まれたのだと思います。

その先生の勧めもあり、私は音楽大学に進学することを決めました。そのためには声楽のみならず、ピアノが弾けなければなりません。家にピアノがなかったため、学校のピアノで練習をしましたが、そのときも



先生は熱心にピアノを教えてくださいました。このような先生のご指導を受けることができたこともあり、私は音楽大学に進学することができました。

指導方針について 聞かせてください

やはり、高校のときの先生の影響がすごく大きかったものですから、私も生徒に教えるときには、熱意を持って教えるようにしています。また、自然に自分の心を表現することにより、生徒に親しみやすい存在でいられるよう心がけています。グリークラブの活動のときには、私も生徒と一緒に歌っています。その方が生徒にも伝わりやすいと考えています。

生徒には、卒業しても何らかの形で音楽とかかわり続けてほしいと思います。教え子の中には音楽大学の先生や、海外で演奏家として活躍している人もいて、ここで学んだ事を生かし、さまざまな舞台で活躍しています。これからも国際的に活躍する生徒が出てきたらうれしいですね。

金城学院に来られてからの ことを聞かせてください

金城学院グリークラブの顧問を勤めてもう30年になります。私が初めて金城学院に来たとき、グリークラブはまだコンクールで上位の成績を取れていませんでした。でも、最初

の年に優秀賞をいただき、それからは生徒も私について来てくれるようになりました。その後は次第に大きなコンクールでも上位に入賞できるようになりました。

現在もグリークラブの顧問として、年間を通してさまざまな活動を行っています。合唱を通じて生徒に音楽の楽しさを感じてもらえるよう、日々励んでいます。また、グリークラブの特色でもある国際交流では、海外演奏旅行を企画し(中国・韓国・ポーランド・オーストリア等、計7回9ヶ国)、音楽を通して国際理解を深めています。来年の3月にはスイス演奏旅行を行う予定です。また、今年の愛・

地球博で3回のコンサートに出演し、生徒には思い出に残る経験となったでしょう。

個人での活動としては、20年ほど前から名古屋オペラ協会に所属し、日本人作曲家のオペラを中心に舞台に出演しています。愛知県芸術劇場大ホールでも何度か主役を任されてもらっています。その場合、演出家や指揮者から厳しい指導を受けますが、たまには叱られる立場になるのも必要だと思います。

最後に生徒への メッセージをお願いします

生徒には、ハングリー精神を持ってもらいたいと思います。言われたことはしっかりできるし、ある程度の形をつくるまではできるのですが、そこで決して満足することなく向上心を持って、さらにもう一段階上のレベルを目指してもらいたいものです。また、音楽を聴くにしてもクラシックならクラシックだけ、ジャズならジャズだけのよう偏った音楽の聴き方をせず、幅広いジャンルの音楽を受け入れられる感性を持ってほしいと思います。

小原先生はこんな人



グリークラブのみなさん

小原先生に初めて出会ったときは、少し怖い先生かなと感じました。しかし、実際に指導を受けるととてもおもしろい先生だとわかりました。特に、先生の学生時代の話はユニークなエピソードがたくさんあり、聞いていてとても楽しいです。部活動に対する姿勢はとても熱心で、

指導を受けている私たちに先生の情熱が伝わってきます。私たちと一緒に歌いながら、全身を使ってリズムをとるように指導していただきますので、とてもわかりやすいと思います。練習中は厳しい表情のときもありますが、本番が終わると優しい表情で褒めてくださいます。